

●心の栄養剤NO40「野口英世のお母さんの手紙」

おまいの。しせ（出世）には。みなたまけ（驚き）ました。
わたくしもよろこんでをりまする。

（中略）

はるになるト。みなほかいド（北海道）に。いて（行って）しまいます。
わたしも。こころぼそくありまする。
ドカ（どうか）はやく。きてくだされ。

かねを。もろた。こトたれにもきかせません。
それをきかせるトみなのれて（飲まれて）。しまいます。

はやくきてくだされ。

はやくきてくだされ

はやくきてくだされ。

はやくきてくだされ。

いしよの（一生の）たのみて。ありまする

にし（西）さむいてわ。おかみ（拝み）。
ひかし（東）さむいてわおかみ。しております。

きた（北）さむいてわおかみおります。
みなみ（南）たむいてわおかんておりまする。
（中略）
なにおわすれても。これわすれません。

さしん（写真）おみるト。いただいてありまする。（神様に捧げるように頂く）

はやくきてくだされ。いつくるトおせて（教えて）くだされ。
これのへんちち（返事を）まちてをりまする。

ねてもねむられせん



野口英世は、有名なお医者さんですが、お母さんは本当に無学な人でした。貧しい家に生まれ、小学校も満足に行けなかったので読み書きが出来ませんでした。

息子は勉強してニューヨークに行き、立派な医者になりました。しかし、お母さんは福島に一人残され、寂しくてしょうがない。

お母さんはあるとき思い立って近所の尋常小学校に通い始め、そこでひらがなの勉強を始めます。

そして、字が書けるようになりました。お母さんは、ニューヨークにいる息子に手紙を書きたくて、一生懸命勉強したひらがなを使って書いたのです。

この手紙が私は大好きです！！読むたびに「じーん」ときます。

1ヶ月前に習ったばかりのひらがなで、読みづらいし、季節の挨拶も、拝啓も前略もありませんが、心を打ちます！！

遠くの子供を気づかって心配させたくないから～と、連絡を控えているとおっしゃる方も多いと思いますが、この英世のお母さんのように、ストレートに子供に感情を伝える事も大切なような気がするし、この母子の強い「絆」を感じます。

最近、年金の問題～後期高齢者の問題～看護・医療の問題・・・腹が立つやら、なんとなくくやしい話が多い毎日ですが、昔の方が貧しくとも「親と子」の距離感は近かったような気がします。

「親」は「子」に対する責任を明確に持ち、「子」は老いた「親」に対する義務感があったのではないのでしょうか？

「老いては子にしたがえ」

という言葉が口癖の高齢者がおられますが、とても幸せそうに見えます！私も子として、年老いた「親」が安心してこの言葉を言えるようにならなくてはと思う今日この頃です！

